大学入学共通テストと高校・新学習指導要領

新課程入試・学部編成　各大学の動向は

令和6年度実施の各大学の入学者選抜が明らかになってきた。新科目になる大学入学共通テストをどのように利用するのか、新課程の個別入試への影響は―。来春入試と学部開設の動きとともに探った。

大学入学共通テストに臨む受験生＝1月、東京・文京区の東京大学（共同）

「情報」は国立大でほぼ必須に

新課程に対応した令和7年度入試の共通テストの出題教科・科目は、既にほとんどの大学が予告をしている。新教科「情報」については、大部分の国立大学が出題することを表明。公立大学は対応が分かれ、私立大学は選択科目とするか、課さないところが目立つ。

国立大学では大部分は必須科目にするが、配点を低めに設定している大学もある。一般的な6教科8科目の場合、入試センターの素点の満点は1000点。情報（100点）の配点比率は10％が標準になるが、名古屋大学は約5％（950点中50点など）、岡山大学経済学部は約3％（925点中25点）と低い。

北海道大学や香川大学、高知大学は必須科目にするが得点化せず、成績が同点だった受験者の合否判定として利用する。

一方、東京学芸大学の情報系コース（前期）は約18％（1100点中200点）、神戸大学工学部（前期）は約11％（450点中50点）など「情報」を重視する教育を行う大学・学部では高めに設定している。

公立大学では約半数が必須にすると見られる。公立はこだて未来大学は令和9年度入試までの3年間、理科2科目と「情報」の中から得点の高かった2科目を評価する。私立大学でも中央大学、明治大学、早稲田大学の一部学部など、選択科目とするところが目立っている。

地歴公民　難関大、必修組み合わせ除外

共通テストの出題科目が6科目に再編された「地理歴史」「公民」。出題科目は必履修同士の組み合わせ（「地理総合、歴史総合、公共」）と、必履修と選択の組み合わせ（「歴史総合、世界史探究」など）の二つに大別されるが、難関大学では必履修の組み合わせを出題しない傾向にある。

北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、大阪大学、京都大学、九州大学の旧帝大や一橋大学、東京工業大学、神戸大学が「必履修型」を出題科目から除外。また秋田大学や群馬大学、福井大学などのように医学部（医学科）でも「必履修型」を出題しない大学は少なくない。私立大学でも上智大学や立命館大学などが出題しないという。知識や概念の深い理解などを問う探究科目を必須とした。

各大学の個別入試でも対応は大きく分かれそうだ。東京大学や京都大学は探究科目（「日本史探究」「世界史探究」「地理探究」）のみを出題する。同じ旧帝大でも北海道大学や九州大学は「歴史総合」「地理総合」を含めるとしている。公民でも「公共」を出題範囲とするかどうかは、同じ大学でも学部により分かれるので志願者は確認が必要になる。

データサイエンス系、開設続く

情報技術分野の人材需要が高まる中、データの分析などを学ぶデータサイエンス系学部の開設は来春も続く。国公立では宇都宮大学（データサイエンス経営学部）、千葉大学（情報・データサイエンス学部）、高知工科大学（データ&イノベーション学群）、熊本大学（情報融合学環）などで新たに開設される。

宇都宮大学のデータサイエンス経営学部は、データサイエンスの素養を持って企業や組織を経営する人材の育成を目指す。入学定員は55人。1学年ではデータサイエンスと企業経営などを学び、2年の後期からどちらかの「学系」を選択する。入試では一般選抜の個別入試で英語重視の「文系型」と数学重視の「理系型」を設け、文理を問わず受験者を募集する。

千葉大学は、これまで工学部の一部だった情報工学コースを独立。新設のデータサイエンスコースとともに情報・データサイエンス学部として開設する。力学や微積、プログラミングなどを1～2学年の共通科目に、その後、医療や環境、デザイン工学などへの応用を意識したデータサイエンス系の専門科目を置く。

政府の教育未来創造会議は昨年の第一次提言でデジタル・グリーンなど成長分野への大学再編・統合を進めることや文理横断の観点から入試科目の見直しを促進することなどを掲げていた。

理工系「女子枠」の導入目立つ

本年度の入試では理工系学部で「女子枠」の導入ラッシュを迎えている。

金沢大学は理工学域が総合型選抜で「女子枠特別入試」を実施する。共通テストと口述試験で34人を募集する。

熊本大学は情報融合学環の学校推薦型選抜に8人の女子枠を設ける。「これまで以上に男女が共に学び合い、さまざまな課題の解決に向けて切磋琢磨する環境が醸成されることで、大学全体でも多様なものの見方・考え方を知り、理解することが広がることを期待する」としている。

女子枠の先駆けとなった東京工業大学では、令和6年度と7年度の2年間をかけて導入学院（学部と大学院を統合した名称）を拡大する。学校推薦型選抜か総合型選抜で143人（約14％）の枠を設ける。それに伴い一般選抜では募集人数の削減になった。

私立では東京理科大学が工学部、創域理工学部、先端工学部の工学系3学部16学科の総合型選抜で計48人を募集する。高校3年1学期（前期）までの数学と理科の評定平均が4・0以上で、志望学科の指定科目を全て履修していることなどを出願の要件としている。

文科省は大学入試実施要項で「多様な背景を持った者を対象とする選抜」の導入を各大学に求めており、その具体例として「理工系分野における女子」を挙げていた。

注目大学に聞く

日本女子大学

建築デザイン学部

佐藤　克志 学部長（就任予定）

生活環境を考える専門性向上へ

日本女子大学は来春、「建築デザイン学部」を開設する。カリキュラムや入試方法について学部長に就任予定の佐藤克志・家政学部教授に聞いた。

◇

―なぜ建築デザイン学部を開設するのですか。

従来の家政学部住居学科でも「利用者や居住者の視点から生活環境を考える」を大切にし、住宅から都市空間までを対象にした学びを提供してきました。そのような多様な学びがあったわけですが、家政学部住居学科という名称から、どうしても「インテリア」「住宅」といった枠組みで捉えられがちでした。今回の学部独立は、その枠組みを取り払い、生活環境としての住宅・建築・都市をデザインする専門性の高い教育をさらに充実させるためのものです。

―入学者選抜の方法を教えてください。

一般選抜や総合型選抜などを実施します。総合型選抜では書類選考の後、「空間表現」の試験と口述試験を行います。過去の「空間表現」では「分割した立方体の動きをデッサンと文章で表現する」といったイメージのものが出題されました。

一般選抜には2教科入試と3教科入試があります。英語が必須で、数学・国語・理科（物理）の中から1教科ないし2教科を選択してもらいます。英語と国語の文系科目だけでも受験できますが、新入生は高校の数学と物理を復習する授業を受けられます。

―学部カリキュラムの特徴を教えてください。

1年生から専門的に学べるのが特徴の一つです。建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備の6分野の基礎知識を学び、建築デザインの全体像を把握してから専門科目を選択履修します。3年生からは学生の興味・志向に応じて、より専門的・実践的に学べる演習科目を開講します。なお、新学部では、国際的に活躍する東利恵さん、隈研吾さん、妹島和世さんの3人の建築家を特別招聘教員として招きます。彼らと接することで学生の感性、思考力、表現力が磨かれることを期待しています。

―高校段階でどのような学びを求めていますか。

入試では数学や物理を必須にはしていませんが、苦手意識を持たないように学習してきてほしいです。また、建築デザインでは、実際に手を動かして作品を制作することが多いので、スケッチや工作に親しんでおくとよいでしょう。

入試とは別に学生に期待したいのは、既にある建築物や都市が、どうすればもっと良くなるか考える力です。生活を豊かなものにしたいという思いも重要です。入学後は多くの課題が課されるため、決して楽はできないと思いますが、その分、大きな充実感が得られるはずです。

※「第10回 夏の教育セミナー」に先駆けて高校教育や大学入試に関する情報を掲載します。

第10回

2023年実施

夏の教育セミナー

2025年共通テストと新学習指導要領

主催：日本教育新聞社／株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）

後援：文部科学省、各都道府県教育委員会 ほか（申請中・予定）

いよいよ あと8日でスタートです！

4年ぶりの会場実施です。お早めにお申し込みください！

高等学校の先生対象　参加無料

8/1（火）東京会場　ベルサール新宿グランド【席数限定】

8/3（木）大阪会場　スイスホテル南海大阪【席数限定】

▶各会場とも／13時開始・17時終了予定（交歓会～18時）

18時ごろまで参加者同士の交歓会もございます（希望制・無料）。ご来場の先生には、限定資料や研究に役立つ情報をご提供いたします。また、追加申込なしで8/14～31のオンライン配信も視聴いただけます。

お申し込みはWEBで！　好評受付中！

夏の教育セミナー　検索

日本教育新聞、および東進（株式会社ナガセ）のウェブサイトからも、専用サイトに行くことができます。

最新情報は順次公開　www.summer-seminar.com

お問い合わせ　夏の教育セミナー事務局　summer-seminar@nagasebros.com

講演者からのメッセージ紹介

基調講演と分科会（授業実践）の講演者からのメッセージです。

敬称略

東京・大阪会場

基調講演　森下 平

（独）大学入試センター　審議役
（兼）試験・研究統括補佐官
（兼）試験企画部長

予見困難な社会を生きていくための力を育てるとして始まった高大接続改革。学力の3要素の育成を目指す高等学校学習指導要領が昨年度から順次実施され、各高等学校では新しい教育課程に基づく授業が始まっています。
大学入学共通テストも高大接続改革の一環として導入されて3年。5回目となる令和7年度試験から、新しい教育課程に基づいて学習した方々が受験するため、大学入学共通テストも新しい学習指導要領に基づくものになります。
今回の講演では、大学入学共通テストが導入された経緯を振り返りつつ、大学入試センターがどのような方針で問題を作成しているのかにも触れながら、令和7年度試験からどう変わるのかについて、ご説明します。

東京会場

情報　稲垣 俊介

東京都立神代高等学校 主任教諭

令和7年度の大学入学共通テストから、「情報Ⅰ」の試験が始まります。これまで、大学入試を情報で受験する高校生は少数でした。しかし、東京大学などの国立大学をはじめ、多くの大学が共通テスト「情報Ⅰ」の導入を発表しました。今後は多くの受験生が情報入試を受けることになります。しかし、その対策に不安を感じている先生方もいらっしゃるのではないでしょうか。私は、東京都立高校の現場で15年以上にわたり情報を教え続けるとともに、東京都高等学校情報教育研究会情報Ⅰ入試検討専門委員会の委員長、情報処理学会情報入試委員会の委員として、これまで情報入試に深く関わってまいりました。この経験を踏まえて、情報入試を見据えたこれからの実践の提案を通じて、皆さんと一緒に情報入試に向けた議論のスタートができれば幸いです。よろしくお願いします。

探究　法貴 孝哲

清真学園高等学校・中学校 教諭

「探究」というと、「うちの生徒のレベルでは…」「探究は時間がかかるから…」「日常の授業のほうが…」という声がどこからともなく聞こえてきます。しかし、「探究とは」と聞かれれば、いつも私は「究極的な「心」の教育です」と答えます。他者を気にせず、自分の「好き」を深堀りしながら、自分で自分をワクワクさせる、そこから始まる「素敵の共創」と「自分世界の広がり」、それこそが探究なのではと考えます。今回は、本校卒業生からの話も含めて、私が探究に携わりながら考えてきたこと、大切にしていることを1つのストーリーとして、皆さんと共有できればと思っています。よろしくお願いいたします。

大阪会場

情報　神藤 健朗

世田谷学園中学校・高等学校 教諭

2022年度入学者から「情報Ⅰ」がスタートし、2025年度入試から「情報Ⅰ」が共通テストに入ります。「情報Ⅰ」2年目の今年は、これまでの授業実践（思考力・判断力・表現力中心の学習活動）を活かしつつ、知識・技能の習得にもつながるように試行錯誤しています。1年間の授業の流れと合わせて、どの学校でも取り入れることのできる、工夫次第で深い学びにつながるような授業実践をお話しさせていただきます。

探究　郡司 直孝

桐蔭学園中等教育学校 教諭

探究的な学びにおいて展開される「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の中で、とくに「課題の設定」は、探究の肝と言えるのではないかと考えます。同時に（だからこそ）、取り組むことがもっとも難しいものであるとも感じています。このたびの分科会では、この「課題の設定」に焦点を当て、「自己の在り方や生き方と一体的で不可分な課題」を少しずつ形作っていくための試行錯誤にどのように取り組み、どのように支えていくのかを皆様と一緒に考えていきます。併せて、カリキュラムや組織づくりに関するアイディアの一つとして共有できればと思います。